

(2) 1歳児

1歳児 実践事例

触って楽しもう

(6月)

観点 (興味・関心) 視点 (意欲 ~おもしろそうだな~)

【遊びの経過】

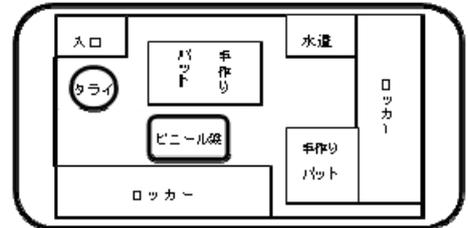
4月から経験している感触遊びでは、「さわってみたい」という気持ちの一方で、手の汚れやぬるぬるとした感触に抵抗をもつ子どももいたが、少しずつ環境にも慣れ、様々なものに興味をもち「やってみたい」「挑戦してみたい」という積極的な気持ちが芽生え、自分からかかわる姿が見られるようになってきた。

【評価】

- ・わらび粉粘土に自分から触れ、押さえたり、ちぎったりして感触を楽しんだり、形のかわる面白さを感じたりしている。

【ねらい】

わらび粉粘土に興味をもち、自ら触って遊ぶことを楽しむ。



★環境構成図

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★発達段階やアレルギーを考慮し、万が一の口に入れても安全なわらび粉、食紅を材料として用意する。
- ★活動場所が広く使えるように室内の遊具等は片付け、思いきり遊べるように、ブルーシートを敷く。
- ★導入後すぐに活動に取り組むことができるよう、わらび粉粘土や容器等を遊べる状態に準備しておく。

〇保育者の話を聞いて、保育者が遊ぶ様子を見る。

先生、楽しそうだな。
【人とのかかわり】

どうしよう。
【葛藤】



私も触ってみようかな。
【意欲】

- 子どもたちが興味をもち、やってみたいと思えるように、保育者が楽しそうにしているところを見せ、遊びに誘う。
- 遊びに入るのを嫌がる子どもには、無理強いをせず、保育者がそばに寄り添いながら、一緒にわらび粉粘土の感触を味わい、思いが共有できるような言葉かけをする。
- 直接触れることに抵抗を感じる子どものために、まるめたわらび粉粘土をビニール袋に入れたり、容器に入れて渡したりすることで活動に参加できるようにする。

〇わらび粉粘土を触ってみる。

どんな感じかな。
【興味・関心】 【探究心】



冷たいよ。
【発見】

私も触ってみよう。
【チャレンジ】



ちょっとたたいてみよう。
【好奇心】

- 水分量を調節して色々な柔らかさのわらび粉粘土を準備したり、食紅で着色をしたりして興味や関心を持てるように工夫する。
- 保育者も一緒に、遊びを楽しむ中で遊び方を知らせたり、もっと遊びたいという気持ちをもたせたりして楽しさを共有する。

〇わらび粉粘土を容器に入れたり、足で触ったりする。

むにゅむにゅする。
【気づき】



のびるぞ。
【発見】 【夢中】

ちぎってみよう。
【挑戦】

- 遊びに夢中になれるよう、個人個人に合わせたペースで遊びを進めていき、一人一人の感じた気持ちや表現を受け止め、保育者が言葉に表しながら共感していく。

【考察】

保育者や友達がわらび粉粘土で楽しそうに遊ぶ様子に誘われ、自分もやってみたいと好奇心をもって素材にかかわる姿が見られた。また、その感触を味わうことで、様々な発見をし、夢中になって楽しむ姿も見られた。子どもは、初めは感触を試し、物とのかかわりを楽しんでいるが、興味を持って繰り返しかかわる中で、次第にその性質などに気づき、子どもなりに使いこなすようになっていく。この年齢の子どもにとって魅力的な素材を探し、触れる機会を設けることで、何事にも興味をもってかかわる子どもを育てていきたい。その際、保育者は、心に響くかかわりや言葉かけを行い、意欲を高める工夫を重ねていきたい。

1 歳児 実践事例

段ボールで遊ぼう (6月)

観点 (生活)

視点 (健康 ~げんきいっぱい~ 運動)

【遊びの経過】

子どもたちは段ボールに興味をもち、車や汽車に見立てたり保育者が段ボールからのぞくと中をくぐろうとしたりして楽しんでた。出し入れ遊びでは、どの穴に入れようか試しながら遊ぶ姿もあった。自分なりに手先や体を色々と動かして遊ぶ姿がみられるようになってきた。

【ねらい】

段ボールを使った好きな遊びを見つけて、全身や手指を使った遊びを楽しむ。

【評価】

・段ボールに興味を持ち、自分の好きな遊びをする中で、「またぐ」「くぐる」「這う」「積む」「つまむ」「入れる」「押す」「引っ張る」など、全身や手指を使った遊びを繰り返し楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★園児一人一人が満足して遊びに集中できるように段ボールの数を十分に用意しておく。
- ★色々な大きさや底が抜けた段ボールなどを用意し、遊びが発展していくようにする。

〇段ボール箱に入ったり、段ボール箱を積んだりして自由に遊ぶ。

二人で入れたよ。
【満足感】



トンネルだ。出られるかな。
【動きの工夫】



落ちないように。
【チャレンジ】
【バランス】



- 子どもたちが好きな曲をかけ、楽しい雰囲気作りをする。
- 色々な遊びや動きに興味をわくよう、保育者が遊んでみせたり、一緒に遊びながら楽しさを共有したりする。
- つもり遊びをしながら体を使って遊んでいる姿を認め、イメージをもって助けるよう声をかける。

- ★いつでも出し入れ遊びができるように、穴を開けた箱を準備しておき、要求や必要に応じて出していく。
- ★力の加減や向きなどを変えて遊べるように、太さや長さの違うクッション材を準備する。

〇穴を開けた箱で出し入れ遊びをする。



入るかな。
【チャレンジ】

ここに入れたい。
【意欲】

はしっこをここに合わせて。そっとだよ。
【力の加減】



- 夢中になっているときは見守り、子どもたちの声や表情を読み取りながら、必要に応じて遊び方や動きのモデルになったり一緒に喜んだりする。
- トラブルになった時には、それぞれの思いを受け止め、必要な言葉を伝えたり、気持ちを代弁したりする。

〇片付けをする。



プッパー。ちょっと重いな。
【力の加減】



ポップー。一緒に行こう。
【動きを合わせる】

- 「車庫に入れてください。」などと声をかけ、楽しみながら片付けができるようにする。
- 楽しかったという気持ちに共感し、「またやりたい」という意欲につなげる。

【考察】

色々な段ボール箱を準備したことで、自分から好きな遊びを見つけて遊ぶ姿が見られた。保育者がモデルとなることにより、まねをしたり自分なりに見立てたりして、色々な遊びや多様な動きにつながった。子どものしぐさや表情、言葉から、保育者が一人一人の思いを汲み取り、「できたね。」「楽しいね。」「おもしろいね。」「上手だね。」などと受け止め、言葉にして返していった。それが、「もっと遊びたい」という子どもの意欲にもつながり、何度も繰り返し遊び、多様な動きをすることができたと感じる。継続して遊ぶことで、徐々に友達遊びにも興味をもち友達のそばで遊んだり動きをまねたりする姿が見られるようになった。今後も、子どもの興味や意欲につながる遊びの展開を工夫していきたい。

1歳児 実践事例 布で遊ぼう おもしろそうだな (10月)
 観点 (興味・関心) 視点 (意欲 ~おもしろそうだな~)

【遊びの経過】

布を使って「いないいないばあ」遊びを楽しんできた。繰り返し布で遊ぶ中で、広げたり丸めたり投げたりして様々に布を変化させて遊ぶ姿がみられるようになった。

【ねらい】

保育者や友達と一緒に、布を使った遊びを楽しむ。

【評価】

・布に興味を持ち、布を広げたり布にかくれたりするなど、自分から進んで遊んでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★素材や大きさの違う布やタオルを用意したり、音楽を流したりするなど、遊びたくなるような雰囲気をつくる。

〇「いないいないばあ」でふれあい遊びを楽しむ。

見てくれたよ。
うれしいな。
【安心感】
【満足感】



いないいないばあ。
先生、見て、見て。
【期待】【信頼】

かくれるよ。
【楽しさ】

■布の感触を楽しむとともに、友達や保育者と顔を見合わせながら遊ぶことを繰り返し楽しめるように、子どもたちの表情を観察し、共感しながら保育者も一緒に楽しむ。

★「ポップコーン遊び」の曲を流し、雰囲気を盛り上げる。
 ★色、手ざわり、大きさなどの違う布を用意する。

〇大きな布に、タオルボールを入れて遊ぶ。
 (ポップコーン遊び)

入るかな。【意欲】



ぼくもやりたい。
ポンポンしよう。
【意欲】【興味・関心】

わあ、おもしろそう。
【興味・関心】【期待】

■曲に合わせて、大きな布からタオルボールが跳ね出る様子を見たり、跳び出したボールを拾ってまた入れたりするなど、期待をもちながらポップコーン遊びを繰り返し楽しめるようにする。

■ボールを入れたり拾ったりする時、子ども同士の衝突がないよう配慮する。

ボールがいっぱい。
またポンポンとぶかな。
【期待】【予想】



拾って入れよう。
【気づき】【意欲】

■自分で遊びが見つけられない子どもには、そばに寄り添い、保育者と一緒に安心して遊びに参加できるようにする。

■自分なりの遊び方で楽しんでいる様子を受け止めながら「ボールがポンポン跳ぶね。」など一人一人に声をかけ、満足感や期待感をもたせ、次の意欲へつながるようにする。

【考察】

保育者や友達と一緒に、布から顔を出して見合うことに興味・関心を持ち、「いないいないばあ。」の声に合わせて隠れたり出たりすることを楽しんでた。「ポップコーン遊び」では夢中になってタオルボールを拾い、バスタオルめがけて投げ入れていた。跳ね上がるたくさんのボールを見て、歓声を上げて喜び、繰り返し遊ぶ姿が見られた。このことから、子どもが主体的に活動できる場や空間、適切な道具、十分に活動できる時間などを整えたり、その時の子どもの姿に合わせて保育を構成していったりすることが大切だと実感した。そして、子どもたちが自分の遊びができる安心感やがんばりが認められる満足感等を味わいながら、安心して思いきり遊びを楽しめるようかかわっていきたい。

【遊びの経過】

タオル地の人形を使った見立て遊びを一人一人が楽しむ姿が見られる。また、好きな玩具を段ボールの車に入れて、「いってきます。」とあちらこちらで楽しそうに運ぶ姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

身近にある玩具に興味を持って自分からかかわり、いろいろな遊びを楽しむ。

【評価】

・好きな玩具を選んで遊んだり、散歩に出かけて自由に歩いたりひもを引っ張ったりすることを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★手作り玩具が自由に使えるようにいろいろな玩具を準備しておく。

(トイレットペーパーの芯で作った望遠鏡、タオルの人形、牛乳パックの親子ペンギン、車等)

★個々で遊べる場所と、車で遊ぶことができる広いスペースとを設定しておく。

〇一人一人が好きな遊びを見つけて遊ぶ。

- ・人形のボタンのつけはずし
- ・望遠鏡のぞき
- ・親子のペンギンを使って挨拶遊び 等



お風呂に入れてあげよう。
【興味・関心】

おはよう。
朝だよ。
【期待】

一緒にお散歩をしたいね。
【提案】【期待】

- 子どもが好きな玩具を選び、自分から遊びたいという気持ちをもてるように、楽しい雰囲気の中で会話をしながら保育者も一緒に遊ぶ。
- つぶやきや表情を受け止めたり、一緒に会話を楽しんだりして、子どもたちが安心して遊べるようにする。
- 広い場所(テラス)があることに気づけるようにし、車での散歩に期待感をもたせる。

★遊びに変化をもたせるために、段ボールの草やトンネルを設定し、本当に戸外を散歩しているように準備をする。

★スムーズに車が動かせるように車の数や重さに気を付けて準備したり、紐の長さを調節したりしておく。

〇好きな玩具を車にのせて、テラスまで散歩に出かける。

よししょ、よししょ。車を引っ張るぞ。【意欲】

トンネルをのぞいてみよう。【意欲】



草の間を通り抜けたよ。【満足感】

- 十分な時間を確保し、子どもたちが遊びの充実感を味わうことができるようにする。
- 車で運んできた玩具を使ってテラスで楽しく遊べるように保育者が一緒になって楽しむ。
- がんばって車を引っ張ったり、どんどん新しい道に挑戦したりしていく姿を認めるとともに、開放感を感じながら思い思いに楽しんでいる姿に寄り添って言葉かけをする。

【考察】

子どもたちは慣れ親しんだ玩具を見つけると、すぐに自分の好きな人形を選んで、布団に寝かせたり車に乗せて遊んだりそれぞれが見立て遊びを十分楽しんでいた。その後、広いテラスへ目を向けるような言葉かけをすると、みんなが興味を示し、好きな玩具を車に乗せてテラスへお出かけしていった。そして、トンネルをくぐったり、段ボールの草の間を通ったりしてのびのびと遊んでいた。子どもが自ら興味を持ち、かかわってみたいと思うような玩具や遊具を準備していくことや、子どもと一緒に遊びを楽しむことなどに努め、子ども同士のやりとりへと発展させた遊びへつなげていきたい。